



須磨海浜公園駅（JR神戸線）の開業式典

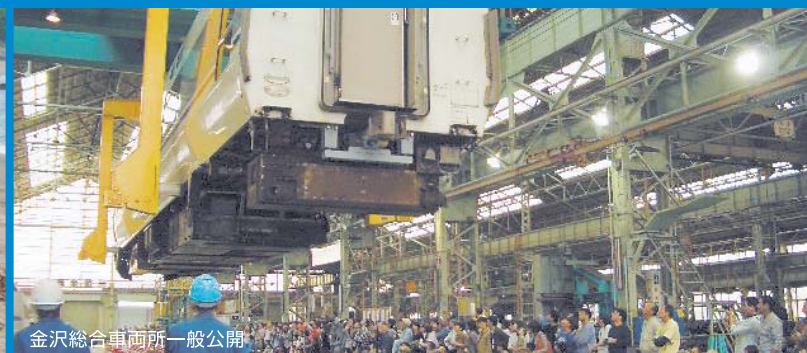


観光列車「瀬戸内マリンビュー」

地域との連携



和歌山県みなべ町千里の浜海岸清掃



金沢総合車両所一般公開

経営がグローバル化する時代にあっても、公益企業である当社は
地域を離れては存在しえず、地域との関係を正面から捉える必要があります。
また、企業には社会の公器として、従来にも増して積極的な企業行動と役割が求められており、
鉄道を日々運行するだけでは公器の名に値せず、
どのような公器となるか「志」を持ち、
地域との関わりを組織として「考動」することが重要です。
そうした中、地域と密に連携し、安全な鉄道ネットワークの充実、
観光による集客、地域拠点である駅及び周辺の価値向上等の事業活動、
さらには事業と関係の深い
「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」「地域社会」の5分野を
中心とした地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでまいります。
活動の一つひとつ積み重ね、
「地域、社会から信頼される企業となること」をめざしてまいります。

取締役兼常務執行役員 総合企画本部長 真鍋 精志



新駅の設置

駅は地域の交流拠点として、あるいはまちの玄関口として、地域の暮らしの中で重要な役割を担っています。当社は、既成市街地にもかかわらず公共交通の利便性が悪い地域や駅を中心としたまちづくり計画がある地域に、地元自治体と連携・協力しながら新駅の設置を進めてきています。平成20年3月には、おおさか東線の5駅に加え、7つの新駅（島本（JR京都線）、須磨海浜公園（JR神戸線）、はりま勝原、西川原、和木（以上山陽本線）、梶栗郷台地（山陰本線）、婦中鶏坂（臨時駅・高山本線））を開業、10月には桂川駅（JR京都線）を開業しました。



島本駅の開業

駅のコミュニティ化

既存の駅についても、地元自治体と連携して、まちの商工会や集会所、学習室、特産物展示室などを併設し、地域の皆様の憩いの場として活用いただく取り組みを進めています。

観光開発による、まちおこし

当社の事業基盤である西日本地域は、豊かな自然と多様性ある歴史、文化、産業が育まれてきています。当社は、地域の一員として、地元自治体や観光関係者、旅行会社と連携し、地域の観光素材を発掘して魅力あふれる旅行商品として提供するとともに、西日本一円に広がる鉄道ネットワークの強みを活かした駅や車内での広告、さらにはTVCM等で西日本各地の魅力を発信することで、地域にお客様を呼び込み、地域を盛り上げていく一助となる取り組みを進めています。



日本海地域の特産物であるカニ料理を商品化した「かにカニ日帰りエクスプレス」

地元の産業を活かした旅行商品「お誂え」（写真は倉敷市児島地区のオリジナルジーンズ製作）

木次鉄道部の取り組み

木次鉄道部は、豊かな自然に恵まれ、神話で有名な雲南・奥出雲地方に位置し、社員44名で木次線穴道・備後落合間81.9kmの列車運行を担っています。トロッコ列車「奥出雲おろち号」を核に、沿線自治体をはじめ地域の皆様、鉄道部全社員が一体となって、地域の活性化に取り組んでいます。

トロッコ列車「奥出雲おろち号」

島根県の沿線自治体からなる「木次線強化促進協議会」と連携し、平成10年から運行しており、年間約2万人のお客様にご利用いただいています。車内では、地元のボランティアガイドの方や名産品販売の方と一緒に、社員も沿線案内等を行い、お客様をおもてなししています。



出雲大東駅のコミュニティ化

平成19年10月に簡易郵便局や雲南市の特産品販売所等が併設されました。雲南市民病院にも近く、多くの方にご利用いただいています。



木次鉄道部では、「おもてなしの心」でお客様をお迎えしようと、地域の皆様と社員全員が一緒になって積極的に知恵を出し合い、よいアイデアがあればすぐに実行しています。お客様に喜んでいただけることが、一人ひとりのやる気の源です。平成19年4月には、歴史の専門家やデザイン学校の生徒さんにご協力いただき、近隣の神話にちなんだ10の新しい駅名看板をつくり、掲げました。今ある各駅の盛り上がりをつないで面の広がりに変え、地域全体の活性化に貢献できればと考えています。



木次鉄道部 部長
内藤 安夫

地域と進める観光キャンペーン

地域や旅行会社とも連携しながら、首都圏から中国地方にお客様を呼び込む「DISCOVER WESTキャンペーン」やJRグループ6社と指定した自治体、観光関係者が協働で実施する「デスティネーションキャンペーン」等を開催し、観光による地域活性化に取り組んでいます。平成19年春は岡山、20年夏は山口でデスティネーションキャンペーンを開催しました。



観光列車の運行

地域と連携し、車両の外観・内装を改造した観光列車「みずが潮彩」（山陰本線下関・仙崎間）や「瀬戸内マリンビュー」（呉線三原・広島間）等を運行し、豊かな自然をじっくりと時間をかけて楽しんでいただく旅を提案しています。



「みずが潮彩」では海側を向いた指定席から日本海の雄大な眺めを満喫いただけるほか、客室添乗員も添乗、車内で様々なイベントを実施しています。



暮らしをサポートするサービスの創造

当社は皆様の日々の暮らしをサポートするため、お客様や地域の皆様の出会いの場であり、地域の暮らしの拠点である駅の魅力づくりを進めてきました。また、保育サービスやクリニック、ギャラリーなどライフスタイルの変化を捉えた多様なサービスを充実させることで、地域の生活・文化の拠点としての駅の価値向上に努めてきました。さらに駅周辺においても、高架下を活用した開発やマンション分譲などにも取り組んできました。

今後は、新たに「線区価値の向上」をコンセプトに掲げ、鉄道部門と創造部門が力を合わせ、これまでの取り組みをより一層推進するとともに、地域の皆様と連携しながら、駅やまちの機能を高め、使い勝手がよく、住みたくなる線区を創造していきます。



大阪駅開発プロジェクト



大阪駅新北ビル(外観)完成予想図



新北ビルとアクティ大阪をつなぐ、全天候型の巨大ドーム空間

「都心に残された最後の一等地」といわれる大阪駅北地区では、平成15年10月に「大阪駅北地区全体構想」が発表され、新しいまちづくりが進んでいます。当社も、「駅とまちがひとつに」という考え方を大切にし、大阪駅開発プロジェクトを推進しています。「発見。感動。OSAKA Grand Station」をコンセプトに、現在、「抜本的な駅改良」「広場・通路の整備」「新北ビルの開発」「アクティ大阪増築」を4つの柱として工事を進めています。まちと一体となった新しい大阪駅が、平成23年春、グランドオープンします。



平成20年10月時点の工事の模様

現在、駅における商業施設の開発を担当しています。

「駅」を鉄道に乗り降りするための通過点から、お客様の暮らしをサポートする魅力的な空間へ。様々なプロジェクトや駅のリニューアルを通じて、魅力的な空間を演出し、お客様に満足していただくには、どのようなサービスを提供すればいいのかを常に考え、仕事に取り組んでいます。今後も、お客様や地域の皆様の視点に立って、ニーズを先取りし、地域の特性にあわせた魅力ある「駅空間」を創造したいと考えています。



創造本部 事業創造グループ
中井 浩之

社会貢献活動

地域とともに生きる企業として、事業活動に加え、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。今後は、事業と関係の深い「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」「地域社会」の5分野を中心に、今ある取り組みを大切にしながら、世の中のニーズに対する感度を高めつつ、活動の輪を広げ、息の長い、力強い取り組みに育てていきます。

安全

広く世の中の安全のお役に立つため、大学などへの寄附講座の開設（京都大学「社会基盤安全工学（JR西日本）講座」（平成20年4月から平成25年3月まで））や講師の派遣を実施しています。また、各支社・職場でも、安全教室の開催などに取り組んでいます。

京都支社（湖北地区）での安全教室の開催

京都支社の若手社員グループ（「RETS88」）は、米原市内の保育園で安全教室を開催しました。（写真は下）



地球環境

持続可能な社会の実現に向け、自治体などと連携し、地球環境に関する情報を発信しています。

湖西線堅田駅のパネル展出版

堅田駅は地元が主催するリサイクルマーケットでのパネル展に参加し、地球環境に関する当社の取り組みを紹介しました。（写真は下）



その他の取り組みはこちらをご覧ください

環境コミュニケーション P49

社会福祉

地域の皆様に安全で良質な医療を提供するため、大阪・広島のと2鉄道病院を運営しています。



平成20年10月から、大阪鉄道病院に回復期リハビリテーション病棟を新設しました。

鉄道文化

多くの方々に、鉄道の歴史、文化を知り、魅力にふれていただくため、歴史的に価値のある鉄道文化遺産の保存展示や情報発信、旅行商品の設定などを行っています。

交通科学博物館、梅小路蒸気機関車館の運営

（財）交通文化振興財団に委託し、交通科学博物館（大阪市）、梅小路蒸気機関車館（京都市）を運営しています。



平成20年11月に引退を迎えたO系新幹線車両を、鉄道記念物に指定し、交通科学博物館に展示しています。

平成20年7月、新山口駅で、交通科学博物館所蔵のヘッドマークや模型などを期間限定で特別展示する「移動博物館」を設置しました。



SLの動態保存、営業運転

かつて日本の鉄道輸送を担っていたSL（蒸気機関車）を、実際に運転できる状態で整備、保存（動態保存）し、地域のご協力を得ながら、「SLやまぐち号」などの営業運転を行っています。



優美な姿で「貴婦人」の愛称を持つ、貴重なC57形蒸気機関車の1号機を使用し、山口線新山口・津和野駅間で「SLやまぐち号」の営業運転を行っています。



運行を支えるため、技術を継承し、SLの検査・修繕作業を行っています。（写真は山口鉄道部車両管理室）

また、JRグループ6社共同で、特色のある駅舎、車両や博物館など、鉄道の魅力を発信するWEBサイト「トレたび～Train Journey」を開設しています。

詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.toretabi.jp/>

地域社会

地域の皆様とともに、地域のニーズにお応えする様々な「地域活動」に取り組んでいます。

駅や車両所における見学受入、工場公開

鉄道に親しみ、鉄道の仕事を知っていただこうと、地元の幼稚園や学校のご要望にお応えし、当社の駅や車両基地などの施設を見学いただいています。また、博多総合車両所等を年1回、地域の皆様に広く一般公開しています。

福知山電車区での見学受け入れ

地元の小学校の社会見学を受け入れています。(写真は下)

金沢総合車両所での一般公開

平成20年10月、一般公開を行いました。(写真はP59扉写真右下)



博多総合車両所「新幹線ふれあいデー」の開催

博多総合車両所では、お客様や地域の皆様に親しんでいただこうと、平成20年10月、「テクノロジーが支える安全・快適な新幹線」をテーマにした一般公開を行い、約15,000名の方にご来場いただきました。



パンタグラフの動作体験



運転シミュレータの体験

ご来場いただいた方の声

- 子供が新幹線が大好きで楽しみにして来ました。次回もまた来たいと思います。
- 新幹線を間近で見られ、また、日頃見られない作業の様子を見ることができて良かったです。

普段、お客様と接する機会はほとんどありませんが、全員が「安全の取り組みも知っていただきたい」「より楽しんでいただきたい」との思いでパネル展示やご案内など役割を分担し、それぞれが工夫しながら取り組みました。ご来場いただいた方からは、温かい声をかけていただき、新幹線が愛されていることを実感しました。今後、仕事やこうした一般公開などを通じ、様々なご期待に応えていきたいと思っています。



博多総合車両所
総務科長 森島 俊(中)
助役 的場 章(左)
車両管理係 窪田 剛久(右)

地域清掃活動

支社やグループ会社、職場ごとに、海岸や観光地、駅周辺での清掃活動に参加しています。

神戸支社「須磨海岸クリーン作戦」への参加

15年にわたって参加しており、平成20年は約600名の社員と家族が海岸清掃を行いました。(写真は左下)

和歌山支社による千里の浜海岸清掃

平成20年7月、支社社員及び西日本鉄道OB会、グループ会社の社員や家族もあわせ、約240名でアカウミガメの産卵場所として有名な、千里の浜海岸のボランティア清掃を行いました。(写真はP59扉写真左下)

(株)ジェイアール西日本メンテックによる天神祭清掃ボランティアへの参加

(株)ジェイアール西日本メンテックでは、毎年、大阪ビルメンテナンス協会主催の天神祭清掃ボランティアに参加しています。(写真は右下)



「鉄道少年団」の活動支援

(財)交通道德協会が青少年の交通道德の高揚を目的に運営する「鉄道少年団」の活動を、会社発足以来、支援しています。平成20年8月には、福井県小浜市で開催された「第56回公德キャンプ全国大会」運営を全面的にサポートしました。



公德キャンプ全国大会

マナー向上の呼びかけ

京都における取り組み

京都では地元有識者のご意見をいただきつつ、観光シーズンの市内交通渋滞緩和をめざした「鉄道+徒歩」による観光のPRや、社員有志による観光案内ボランティアなどに積極的に取り組んでいます。



嵐山花灯路へのボランティア参加

祇園祭へのボランティア参加